

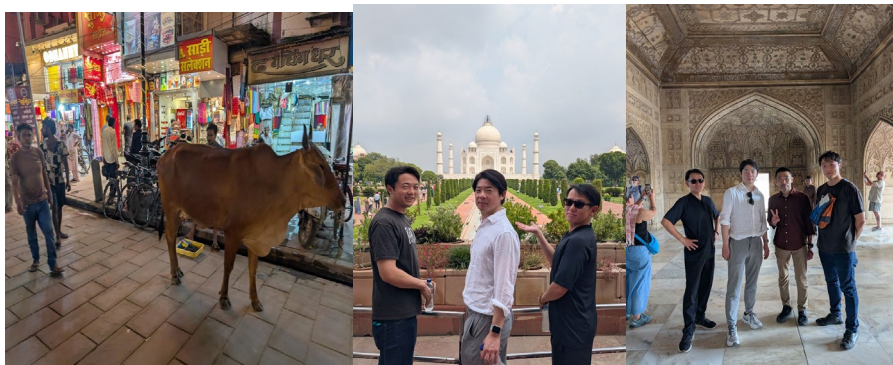
APHS India 2025 参加報告

市立東大阪医療センター 消化器外科 北尻 成司

日本ヘルニア学会より奨励金をいただき、誠に感謝しております。ご支援の元、今回初めてヘルニアの国際学会に参加しました。ここに謹んで、ご報告を申し上げます。

日頃は、外科専攻医として市立東大阪医療センターで谷田先生のご指導いただき修練しております。日々の診療の中で興味が高まり、第22回および第23回と日本ヘルニア学会に参加しました。ヘルニア診療についてより深く学びたいと考えるようになり、さらには先生方の勧めも後押しとなって、この度APHSに応募させていただきました。

現地でまず驚いたのは、日本とは大きく異なるインド特有の文化や生活についてです。多くの日本人がインドに行くと人生観が変わるといいます。その言葉に違いなく、交通事情の混沌さやクラクションの喧騒、屋台の広がる路地や色鮮やかな民族衣装、香辛料の香りなど、視覚・聴覚・嗅覚など五感すべてに非日常があふれていました。一方で、APHSよりご用意いただいたエアロシティの宿舎では、安心して快適に過ごすことができました。



学会の発表は鼠径ヘルニアおよび傍ストーマヘルニアの腹腔鏡下での修復についてでした。前述の通り日本とは大きく異なる環境の中でしたが、学会関係者の皆様やインドで勤務されている日本人の皆様のご協力もあり、無事に学会を終えることができました。また、ライフスタイルや食文化が腹部ヘルニアの発症に与える影響、さらに医療資源へのアクセスなど、診断が遅くなる例の発表が多く見られました。日本とは異なる背景の中で、腹部ヘルニアの予防や治療に対するアプローチの重要性が議論されていたことが印象的でした。

ご支援いただきましたヘルニア学会、ならびに関係各位の皆様に深く御礼申し上げます。今回の経験を踏まえ、私自身も日本のヘルニア診療に貢献できるよう、さらには2026年の大阪でのヘルニア学会に向けて、日々精進して参りたいと思います。

